

高等学校

平成 8 年 度

教育研究員研究報告書

商 業

東京都教育委員会

平成 8 年度

研 究 委 員 名 簿

商業部会

学 校 名	氏 名
都 立 芝 商 業 高 等 学 校	渡 辺 利 之
都 立 第 四 商 業 高 等 学 校	河 合 和 美
都 立 池 袋 商 業 高 等 学 校	中 島 博 己
都 立 荒 川 商 業 高 等 学 校	石 野 隆
都 立 葛 飾 商 業 高 等 学 校	永 岡 穰
都 立 第 二 商 業 高 等 学 校	古 屋 伸 明

担当 教育庁指導部高等学校教育指導課

指導主事 高 田 憲 一

目 次

I	主題設定の理由	2
II	多様化の現状	
1	アンケートの集計結果	2
2	アンケートの分析	8
III	生徒の多様化に対応した教育課程（全日制課程）	
1	教育課程の変遷	10
2	これからの教育課程の一考察	11
IV	生徒の多様化に対応した教育課程（定時制課程）	
1	定時制の現状	15
2	これからの教育課程の一考察	15
3	まとめ	16
V	年間指導計画案	
1	年間指導計画案（1）	18
2	年間指導計画案（2）	19
3	年間指導計画案（3）	21
VI	おわりに	24

I 主題設定の理由

今日の技術の進歩と経済の発展は、文化水準を一段と向上させ、物質的な豊かさを生むとともに、国際化、情報化、価値観の多様化など社会の多方面にわたり大きな変化をもたらしている。これらの変化は、今後もますます拡大することが予想される。

人間社会は、本来多様な個性をもつ人々の集まりである。人々の価値観がますます多様化していく社会においては、全体として調和のとれた豊かな人間関係が実現できる環境を備えていなければならない。すなわち、それぞれの個性、価値観、長所、短所などを異にする人々によって構成され、互いに他を認めあい支えあうことができる社会への変容である。

高校生の年代は、自我に目覚め、各自の個性が大きく伸びようとする時期にあたる。こうした高校生には一人一人を大切にす幅広い教育が求められる。高校進学率の上昇に伴い、個々の生徒がもつ能力の幅は大きく広がり、適性や興味、関心、希望する将来の進路も多様になっている。また、社会の進展とともに教育内容も多様化してきていることから、今以上に、どの生徒に対しても、能力や適性、進路希望などに応じて、その個性を最大限に伸ばすような教育をしていく必要がある。

このような教育の在り方を商業教育においても真剣に考え、積極的に対策を講じていくことが、商業高校に与えられた課題であるといえる。

今年度の教育研究員は、こうした観点から、生徒の多様化に対応した商業高校の在り方について検討するため、商業高校の教育課程の内容を中心に具体的に研究、考察することを目的として主題の設定を行った。

II 多様化の現状

1 アンケートの集計結果

本研究委員会では、商業高校に学ぶ生徒の多様化の状況を把握するために、各研究委員の所属校の生徒と商業の教員、近隣の中学校の生徒（3年生）と教員を対象にアンケート調査を実施した。その集計結果を示すと以下の通りである。

(1) 中学生に対するアンケート集計結果（回答件数9校 833名）

①高校は何を基準に決めますか。

大学・短大進学に有利	就職に有利	専門的な知識が得られる	その他
368人(44%)	220人(26%)	138人(17%)	107人(13%)

②進学しようと考えている学校はどのような学校ですか。

普通高校	商業高校	工業高校	農業高校	その他
662人(79%)	77人(9%)	48人(6%)	4人(1%)	42人(5%)

③商業高校に対してどんなイメージをもっていますか。(上記②で商業高校と答えた生徒) 複数回答有

就職ができる	資格が取れる	パソコンが学べる	その他
36人(47%)	32人(42%)	18人(23%)	2人(3%)

④商業高校を選んだ理由を教えてください。(②で商業高校と答えた生徒) 複数回答有

就職したいため	32人(42%)
資格を取得するため	23人(30%)
保護者から勧められたため	11人(14%)
自宅から近くて便利だから	8人(10%)
進学したいため	4人(5%)
他の高校に比べて入りやすいと思ったので	2人(2%)
中学校の先生から勧められたため	0人(0%)
その他	2人(2%)

⑤商業高校で何を学ぶか知っていますか。(②で商業高校と答えた生徒)

少し知っている	知らない	よく知っている
47人(61%)	12人(16%)	6人(8%)

⑥どのようにして知りましたか。

(上記⑤で「よく知っている」「少し知っている」と答えた生徒) 複数回答有

家族から聞いた	自分で調べた	先生から聞いた	先輩から聞いた	その他
40人(52%)	6人(8%)	4人(5%)	4人(5%)	9人(12%)

⑦商業高校から推薦により大学・短大へ進学できることを知っていますか。

知らない	聞いたことはある	知っている
608人(73%)	155人(19%)	68人(8%)

⑧推薦による大学・短大の進学が可能なら商業高校に入学したいと思いますか。

(②で進学先を商業高校以外と答えた生徒)

考えていない	どちらともいえない	入学したい	その他
333人(44%)	308人(41%)	67人(9%)	30人(4%)

⑨商業高校に望むことは何ですか。

複数回答有

将来役立つような専門知識の習得	資格取得	大学・短大への進学指導	その他
397人(48%)	211人(25%)	165人(20%)	46人(6%)

(2) 中学校の教員に対するアンケート集計結果(回答件数9校 45名)

①商業高校についてどのようなイメージをおもちですか。複数回答有

就職に有利	資格取得	比較的入学しやすい高校	パソコンを学べる	その他
31人(69%)	29人(64%)	13人(29%)	10人(22%)	0人(0%)

②商業高校を希望する生徒は商業高校に対してどのようなことを望んでいると思いますか。

資格取得（簿記、情報処理など）	29人(64%)
就職	26人(58%)
より役立つ専門知識の習得	12人(27%)
大学・短大への進学	3人(7%)
その他	0人(0%)

複数回答有

③商業高校が今後どのような方向に変わっていけば、生徒に勧められる高校になると思いますか。

複数回答有

資格取得実績をつくる（簿記、情報処理、税理士など）	26人(58%)
就職の合格率をあげる	23人(51%)
基礎学力の徹底指導及び生活指導面の充実	19人(42%)
大学・短大進学の実績をあげる	4人(9%)
その他	2人(4%)

(3) 全日制商業高校の生徒に対するアンケート集計結果（回答件数6校 801名）

①なぜ商業高校を選んだのですか。複数回答有

就職したいから	467人(58%)
資格をたくさん取得したいから	454人(57%)
自宅から近くて便利だから	202人(25%)
他の高校と比べて入りやすかったから	152人(19%)
保護者の方に勧められたから	127人(16%)
中学校の先生に勧められたから	69人(9%)
進学（四大・短大）したいから	33人(4%)
その他	36人(4%)

②商業高校に対してどんなイメージをもっていますか。複数回答有

資格がたくさん取得できるのでよい	546人(68%)
就職ができるからとてもよい	459人(57%)
パソコンをたくさん勉強できるのでよい	330人(41%)
普通科目の他に商業科目を勉強するので楽しい	233人(29%)
生活指導（遅刻、頭髪、服装など）が厳しくてよい	25人(3%)
推薦で進学（主に四大・短大）できるのでよい	23人(3%)
その他	51人(6%)

③商業科目の中で好きな科目は何ですか。また理由も教えてください。複数回答有

1位 文書処理 (298人)

理由・自分のためになる。・将来大切なことなので興味がある。
・社会に出てから役に立つ。・資格が取れる。・実習科目が好き。

2位 簿記 (285人)

理由・やり方が理解できるとやりやすい。・初めて学ぶものだから楽しい。
・興味があって楽しい。・思っていたより面白い。・資格が取れる。
・やれば結果が出やすい。

3位 情報処理 (255人)

理由・コンピュータが学べる。・楽しい。・将来役に立つ。・資格が取れる。
・自分のためになる。・長いプログラムを完成したとき満足感がある。

④商業科目の中で嫌いな科目は何ですか。また理由も教えてください。複数回答有

1位 簿記 (291人)

理由・面倒だから。・理解できない。・覚えることが多い。・難しい。
 ・わからない。・問題を解くのに時間がかかる。・複雑である。
 ・どのように役に立つかわからない。・楽しくない。

2位 流通経済 (282人)

理由・面倒だから。・理解できない。・つまらない。・難しい。・わからない。
 ・勉強する気になれない。

3位 計算事務 (232人)

理由・内容が多い。・難しい。・検定に合格できない。・必要ではない。

- ⑤商業に関する科目の中で、こんな科目があったらいいなと思う科目を教えてください。
- ・販売実習 ・インターネット、パソコン通信 ・マナー礼儀作法(秘書)
 - ・現場実習 ・コンピュータグラフィック ・コンピュータによるデザイン

⑥希望している進路は何ですか。

就職	専門学校進学	未定	大学進学	公務員	短大進学	その他
420人(52%)	129人(16%)	127人(16%)	49人(6%)	45人(6%)	13人(2%)	18人(2%)

- ⑦現在通っている学校に何を期待しますか。また、それはなぜか理由も教えてください。
- 一番多かった意見は、「資格がたくさん取得できるように指導してほしい。」であった。
- 理由・自分の可能性を引き出してほしいから。・就職に有利なので。・楽しいので。
 ・たくさんの資格を取りたいから。・資格が取れなければ就職が難しいので。

⑧現在の学科(商業科、情報処理科など)に満足していますか。

満足している	満足していない
577人(72%)	224人(28%)

⑨学科を変更できるものなら変更したいと思っていますか。また、それはなぜか理由も教えてください。(上記⑧で「満足していない」と答えた生徒)

変更したい	今のままでよい
113人(51%)	111人(49%)

理由・情報処理がわからないので。・2年間頑張ってきたので。
 ・パソコンを使っただけの授業が少なく最初のイメージと違っていた。
 ・2クラスしかないので交流がなく友達をつくりにくい。
 ・満足はしていないが一生懸命勉強して自分のものにしていきたい。
 ・満足はしていないが学科を変えると余計辛くなる。

(4) 全日制商業高校の商業の教員に対するアンケート集計結果(回答件数53名)

①教育課程を編成する上で、どのようなことに力点を置けばよいと思いますか。複数回答有

少ない科目を集中して徹底的に行う	22人(42%)
選択幅を広げるために選択科目を多くする	22人(42%)
課題研究のような生徒主体の授業を多くする	8人(15%)
その他	11人(21%)

②授業を行う上で、特に何に力を入れていけばよいと思いますか。複数回答有

検定試験にとらわれず、その教科の内容の深化を図る	18人(34%)
実社会ですぐに通用するような授業内容を考える	11人(21%)
高度でなくてもよいから資格をたくさん取得させる	9人(17%)
より高度な資格を取得させる	8人(15%)
講義よりも実習を充実させる	6人(11%)
その他	10人(19%)

③商業高校生にとって特に重要な科目は何だと思いますか。また、その理由も記入してください。複数回答有

1位 簿記(34人) 2位 情報処理(27人) 3位 流通経済(23人)

理由・商業の基礎的科目であり、一般社会に出てから最低限必要な知識である。

- ・商業の流れを勉強することにより、現在の経済の動きや会社などに及ぼす影響などを学ぶことができる。
- ・簿記、情報処理は経営管理能力の育成に必要不可欠である。

(5) 定時制商業高校の生徒に対するアンケート集計結果(回答件数9校 447名)

[学校全般について]

複数回答有

①定時制高校を選んだ理由は何ですか。

全日制が不合格だったから	129人(29%)
中途退学したため	104人(23%)
はじめから定時制が希望だったから	77人(17%)
全日制で留年したので定時制へ編入した	60人(13%)
生涯学習の一環として	20人(4%)
職業上、専門教育が必要なため	14人(3%)
その他	48人(11%)

②他の高校に変わりたいと考えたことがありますか。(上記①で「全日制不合格」「全日制留年」と答えた生徒)

複数回答有

ない	124人(66%)
ある(全日制普通科)	33人(19%)
ある(全日制商業科)	17人(9%)
ある(全日制他の専門学科)	8人(5%)
ある(定時制他の専門学科)	9人(5%)
ある(定時制普通科)	6人(3%)

③商業高校を選んだ理由は何ですか。複数回答有

自宅から近かったから	175人(39%)
「商業」を勉強したかったから	117人(26%)
高校の卒業が目的なので、どの学科でもよかった	106人(24%)
普通科は数学、英語などの授業が多いから	32人(7%)
職場から近かったから	16人(4%)
その他	65人(15%)

④今の高校生活に満足していますか。

おおよそ満足している	147人(33%)
少し不満がある	96人(21%)
大いに満足している	89人(20%)
大いに不満である	61人(13%)

⑤他の学科と比べて「商業高校のここがよいところだ。」という点をあげてください。

- ・資格が取れる。
- ・初めて学ぶ科目がある。
- ・ワープロ、パソコンが学べる。
- ・授業が楽しい。
- ・将来、就職に役立つ。
- ・珠算が学べる。
- ・商業のことが深く学べる。
- ・指導がよい。
- ・簿記(帳簿)が学べる。
- ・一般常識が学べる。
- ・英語や数学が少ない。

〔授業について〕

①好きな教科・科目をあげてください。複数回答有

1位 体育（204人） 2位 文書処理（161人） 3位 簿記（96人）

②嫌いな教科・科目をあげてください。複数回答有

1位 数学（201人） 2位 英語（148人） 3位 社会（139人）

③「商業」の科目で好きな科目をあげてください。複数回答有

1位 文書処理（203人） 2位 簿記（126人） 3位 情報処理（68人）

④「商業」の科目で嫌いな科目をあげてください。複数回答有

1位 簿記（166人） 2位 流通経済（120人） 3位 計算事務（97人）

⑤「商業」の授業に満足していますか。

おおよそ満足している	205人(46%)
少し不満がある	99人(21%)
大いに満足している（楽しい）	56人(13%)
大いに不満である	51人(11%)

⑥「商業」の科目の中で、こんな科目があったらいいなと思う科目をあげてください。

- ・ソフトやプログラムに関する科目
- ・福祉関係に関する科目
- ・ニュースに関する科目
- ・出店に関する科目
- ・グラフィックデザインに関する科目
- ・電卓の活用に関する科目
- ・ビジネスマナーに関する科目
- ・デザインに関する科目
- ・コミュニケーションに関する科目
- ・家計簿のつけ方に関する科目
- ・販売接客に関する科目
- ・インターネットの活用に関する科目

〔その他〕

①これからの定時制商業高校にどのようなことを期待しますか。複数回答有

資格が取得できる	121人(27%)	マナー	26人(6%)
クラブ活動，友達	68人(15%)	恩師，その他	19人(4%)
基礎学力	59人(13%)	教養	18人(4%)
学校行事	42人(9%)		
就職先	35人(8%)		
毎日の生活のリズムをつける	30人(7%)		

②高校卒業後の進路についてどのように考えていますか。

新しく就職するつもりである	99人(22%)
専門学校への進学を考えている	79人(18%)
特に考えていない	64人(14%)
しばらくアルバイトを行う予定である	54人(12%)
現在の仕事を続けるつもりである	40人(7%)
大学・短大への進学を考えている	29人(6%)
その他	35人(8%)

2 アンケートの分析

(1) 中学生に対して行ったアンケートの分析

高校を選ぶにあたっては、大学、短大への進学に有利な普通高校が、数の上では大半である。次いで、「高校卒業後は就職する」ということを念頭に置いている生徒については、「専門的な知識が得られる」「資格が取れる」という理由で、商業高校を選んでいる傾向が読み取れる。

また、商業高校に望むことについては約20%の生徒が「大学、短大への進学指導」と回答していることから、商業高校も大学などを目指すことができる高校であってほしい、との希望が少なからずあるということがわかる。

(2) 中学校の教員に対して行ったアンケートの分析

商業高校は、「就職に有利」「資格が取得できる」では、評価されているが、進学指導となると、中学生に対するアンケートの調査結果に見られるように、生徒に商業高校について話をした教員は少ない。この理由としては、中学校側において商業高校の詳しい学習内容や学校の雰囲気といったものがあまり認識されていないものと考えられる。この問題を解決するためには、もっと、中学校の先生や生徒に商業高校の教育内容や特色などについて理解して知ってもらう働きかけを行う必要がある。以下、そのために考えられる具体的方策（既に各学校で実施されている活動もある）を示す。

ア 体験入学

学校説明会の際、中学生にパソコンやワープロなどの教育機器に直接触れてもらい、中学生が情報処理や文書処理の実習体験をすることを通して、商業科目の学習内容や雰囲気などを感じ取ってもらうようにする。その際、自校の特色をさらに理解してもらえそうなプログラムが盛り込まれていればより効果的である。他にも簿記や計算事務を題材とした内容の実習も工夫次第で実習体験させることができる。また、商業に関する科目にかかわらず、英語のLL機器を活用しての実習体験も企画できるものとする。

イ 公開講座

学校近辺の地域住民を対象とする公開講座とは別に、中学校の先生や保護者を対象とした商業教育及び商業高校の特色を理解してもらう目的で開催するものである。したがって、当然この講座・内容は商業に関わりのあるものを選定する。

ウ 授業・学校行事の参観

中学校の先生や保護者に普段の授業や代表的な学校行事である文化祭を参観してもらい、日常の学習の様子や盛大な行事に取り組む商業高校生の生き生きとした学校生活を見てもらうようにする。

エ 各種競技大会の開催

都立S商業高校においては毎年1回、小中学生に対して珠算競技大会を実施しているが、大会に参加する小中学生の一層の励みとなっており、大変意義あるものになっている。

また、都立I商業高校では、電卓の競技大会を実施しているが、大会の開催が学校のよきPR活動としての役割を果たしており、大変効果的である。

これらはすべて、各高校が中学校の生徒、先生、保護者などを学校に迎えてのPR活動で

あるが、それだけでは一方通行的な働きかけで終わってしまうので、逆に高校側から各中学校に出向いていく活動も必要である。

オ 中学校訪問

文字通り、高校の教員による各中学校への訪問である。訪問に際しては、自校の学校案内（パンフレット）、ポスター、ビデオを配布するなどして、ていねいな学校紹介を行いたい。

訪問の際には、当該中学校を卒業して現在自校に在学している生徒と一緒に連れていき、当時の担任や授業を担当した先生と面会の上、高校入学から現在までの感想を述べさせたり、近況報告させたりすれば先方に喜ばれ大変効果的である。

以上のPR活動は、各商業高校内のすべての教員が協力、分担して継続的で計画的に実施するのは当然であるが、その全般的な企画、実施当たっては特定の部あるいは委員会などを組織し、そのチームが中心となって進めていくのが効果的である。例えば、PR活動の年間計画をはじめとして、体験入学や公開講座などの内容の検討、中学校訪問での訪問地域及び学校の選定、訪問方法の検討、PR用学校案内やポスター、ビデオの製作などについての取り組みである。このような地道な広報活動が中学校の先生、生徒、保護者の商業高校への理解につながるものと考えられる。

(3) 全日制商業高校の生徒に対して行ったアンケートの分析

商業高校に対するイメージは、入学前と入学後とではほとんど変わりはなく、いずれも「就職ができる」「資格をたくさん取得できる」が圧倒的に多い。また、好きな商業科目としては、簿記、ワープロ、情報処理と実務にかかわる資格取得（検定）科目が多い。これらの科目は、検定試験合格という目標が学習の一つの励みになること、学習結果が目に見えて現れ、合格すれば自信をもつことにつながるという理由によるものと思われる。

希望する進路は、半数以上の生徒が就職であり、商業高校の特徴を示している反面、就職以外の希望の生徒も半数近くおり、公務員の受験指導や進学指導もおろそかにできないことを物語っている。

在籍している学科については、約28%の生徒が満足していないと回答しており、これは特に商業科以外の学科に在籍している生徒に多い。また「変更したい」と約半数の生徒が回答しており、この点においては現システムでは他の学科に変更できないことが、小学科制の一つの大きな問題点といえる。

(4) 全日制商業高校の商業の教員に対して行ったアンケートの分析

学校週5日制の実施とかかわって、3年間の履修単位数は減少していくものと考えられるが商業科においても生徒の適性や興味・関心などの多様化に対応するため、基礎的必修科目を厳選し、幅広く選択科目を増やす必要があるという見解が窺える。

また、資格取得については、生徒側の意向とは異なり、教員側では「検定試験にとらわれずその教科の内容の深化を図る」という意見も多数あり、教わるものと教えるものとの意識の違いを感じさせる。ただ、検定の本来の趣旨は授業の到達度の確認のためのものであり、この点を踏まえた指導であれば教員の否定的な意見も変わってくるものと思われる。検定で基本的学

習内容を理解し、そこで得た知識、技術を土台に現場実習や自らのテーマを設定しての研究へと進んでいけば、より専門性の深化へとつながるものとする。

(5) 定時制商業高校の生徒に対して行ったアンケートの分析

志望動機については、全日制不合格のためやむを得なく定時制へ入学してくる生徒がほとんどである。基礎学力の充実が一つの大きな課題といえる。

商業科目については、高校に入学して初めて学習する科目であるということで、生徒も大きな期待をもっている。簿記については、好き嫌いがいずれにおいても多数を占めているのが特徴となっている。その嫌いな最大の要因としては、学習時間が確保できないことが、簿記の学習内容の発展的な理解の妨げになっていることだと考えられる。

ワープロは全日制の生徒同様、好きな科目の筆頭となっている。商業科目の授業全般に対する期待についての評価は、大半の生徒がおおむね満足しているというのが現状であり、先生方の熱心な指導の成果であると考えられる。

これからの商業高校に対する期待についても全日制の生徒同様、「資格の取得」ととらえており、この学習領域における一層の指導の充実を図らなければならない。

卒業後の進路については、新たな就職や専門学校への進学を望んでいる生徒が多く、多様化の傾向が見られる。

Ⅲ 生徒の多様化に対応した教育課程（全日制課程）

1 教育課程の変遷

商業高校における教育課程は、過去、1年次に基礎を学習し、2年次より一人一人の進路・適性などにより各コースに分かれて学習するという類型制が主流を占め、その後、類型制よりも更に専門性の深化を図るために、それぞれの学科が明確な目標を掲げた小学科制に移行するようになり、それぞれ時代の変化に対応してきた。類型制・小学科制ともに生徒が希望する進路の実現や一人一人の適性を更に伸ばすためには効果的な教育課程である。それぞれの特色は以下の通りである。

類型制	1年次	2年次	3年次
共通 基礎科目	-	Aコース	
		Bコース	
		Cコース	

1年次は基礎を共通で学習し、2年次よりコースを選択するため、生徒一人一人の希望する進路や適性などにそった形で学習できる。

小学科制	1年次	2年次	3年次
	A学科		
	B学科		
	C学科		

入学時より明確な学科目標を掲げて、それにそった学習をするので、類型制よりも専門性が深化され、今まで高校生では取得できなかったような高度な資格も取得可能となる。

2 これからの教育課程の一考察

21世紀をむかえようとしている今日、時代の変化とともに教育界を取り巻く社会情勢は大きく変化してきている。情報化や国際化がますます進み、人々の価値観も多様化してきている。教育課程においても、社会の変化と生徒の多様化に対応するために、選択科目を多く取り入れた新しい教育課程が求められるようになっている。

1. 21世紀を担う人材とは

- ①一人一人の特性を生かし社会に貢献できる人材。
- ②あらゆる変化に対応できるたくましい人材。
- ③ボランティア精神にあふれた人材。

2. これからのキーワード

- ①情報化：コンピュータネットワーク、マルチメディア社会の到来。
- ②国際化：グローバル社会の到来（世界の一体化と国際競争の激化）。
- ③多様化：価値観の多様化。

3. 専門高校としての商業高校の役割

- ①生涯学習時代に耐えうる基礎・基本の重視。
- ②他学科と異なる教育メニューの提供（専門性の深化）。
- ③生徒の希望に叶った進路の実現。
- ④後期中等教育を修了する満足感・充実感。

以上の事項を踏まえ、生徒の多様なニーズに応えるために、新教育課程では、「専門性の深化」と「選択幅の拡大」という相反することを、同時に、いかに取り入れていくかが問題となる。その意味で「総合選択制」の教育課程が望ましいと考える。イメージとしては次の通りである。

1年次	2年次	3年次
共通基礎科目	Aを中心に学習するコース	
	・共通必修	・共通必修
	・コース必修	・コース必修
	・自由選択	・自由選択
	Bを中心に学習するコース	
	・共通必修	・共通必修
	・コース必修	・コース必修
	・自由選択	・自由選択
	Cを中心に学習するコース	
・共通必修	・共通必修	
・コース必修	・コース必修	
・自由選択	・自由選択	

(1) 「総合選択制」の教育課程の特色

ア 「産業社会と人間」を各学年に1単位ずつ共通必修とする。

選択の幅が広がれば広がるほど、学習動機づけの工夫が必要となる。自己の進路・適性などをしっかり見定め、将来に対する明確な目的意識を身に付けさせ、それに合った選択をさせる必要がある。

また、進路先も以前よりも多様化してきており、生徒一人一人の価値観の多様化に応じた進路指導が求められている。このような状況の中で、職業内容の理解を深め、自分の力で進路を選択し、社会の変化に対応しながら職業生涯を全うする能力の育成が必要となる。従来はHR活動などで行っていた科目ガイダンスを、「産業社会と人間」として教育課程に位置付けて指導していく。

イ 必修科目は少なめにして選択幅を広げる。

生徒の多様なニーズに応えるためには、より細かな選択が必要である。それぞれのコースはあくまでもモデルである。そのコースが強制的に押しつけられないように、同じコースの中でも多様な選択が可能になるようにする。

ウ 選択科目を2、3年次の両方に置く。

2年次に選択できなくても、3年次に選択できるようにすることにより、生徒の多様なニーズにより細かく応えることができる。

エ 3年次にすべての科目の統合的な科目を置く。

教育課程を編成する上で、選択幅が広がったからといって、それぞれのコースが全く違う方向へ進むのではなく、最終的には統合化されなければならない。その意味で、3年次に「総合実践」と「課題研究」を統合化の科目として位置付け、共通必修科目とした。

(2) 各コースの目的と特色

ア 経理・会計を中心に学習するコース

主に簿記・会計に関する分野についての学習が中心となる。取引を正確に記帳することからはじまり、財務諸表の作成、経営分析などを学習し、企業の経営管理能力の育成を図ることを目的とする。将来、経理担当者・原価計算担当者になりたい者、更に税理士や公認会計士を目指すための基礎を身に付けたい者にも適している。全商簿記検定1級・日商簿記検定2級合格を目標とし、検定取得による大学・短大への推薦入学希望者にも適している。

イ 情報処理を中心に学習するコース

主に情報処理の分野についての学習が中心となる。産業社会における高度情報化の進展に対応することを目的とする。コンピュータに関する基礎知識を習得することからはじまり、コンピュータの利用技術の習得、更に情報処理技術者を目指す者にも適している。全商情報処理検定1級合格を目標とし、通産省情報処理技術者試験2種・初級システムアドミニストラータ合格も目指す。

しかし、必ずしも全員が情報処理技術者を目指しているわけではなく、選択の仕方によっては、一般事務担当者になりたい者にも適している。

ウ O Aビジネスを中心に学習するコース

企業のO A化に対応できる技術を身に付けることを目的とし、一般事務職を希望する者に向いている。このコースでは、特にO A機器を利用する技術を身に付けるため、ワープロ・表計算・データベースなどのアプリケーションソフトを使いこなせるようにする。全商ワープロ検定2級・全商コンピュータ利用技術検定2級合格を目標とし、更に全商ワープロ検定1級、日商ワープロ検定1級、2級や全商コンピュータ利用技術検定1級合格も目指す。

エ 経営ビジネスを中心に学習するコース

商業一般の幅広い知識を習得するとともに、これまでの商業高校の教育内容を発展させ、流通・企業経営に着眼点をおき、一企業人としての知識マナーを身に付けることを目的とする。特に企業におけるコミュニケーション能力を養うことに重点を置き、言葉遣い・身だしなみはもちろん、販売における心構え・正確に文書を作成する能力なども育成する。各協会主催の秘書検定・全商商業経済検定合格、更に日商販売士検定や全商ワープロ検定などにも対応できるようにする。

オ 国際理解を中心に学習するコース

人・物・情報の国際的交流がますます活発化している今日の国際化社会に対応するため、商業を通して、国際的な視野に立って思考し、行動する力を養うことを目的とする。また、外国人とのコミュニケーション手段である外国語、その中でも世界の公用語である英語を話す力・読んで理解する力を身に付けることも目的とする。全商英語検定1級・実用英語技能検定2級合格を目標とし、英語の語学力を生かした就職や、大学・短大などへの進学を希望する者に適している。

教育課程表 (全日制課程)

教科	科目	1年		2年			3年			履修単位			
		必修	△選択	必修	☆選択	◇選択	必修	○選択	□選択				
国語	国語 I	3								3			
	国語 II			2			2			4			
	国語表現					2		2		0-2			
	現代文				3				3	0-3			
	古文					2		2		0-2			
地理歴史	世界史 A			2						2			
	日本史 A						2			0-2			
	地理 A						2			0-2			
公民	現代社会	3								3			
	倫理政治経済					2		2		0-2			
数学	数学 I	3								3			
	数学 II			2						2			
	数学 A					2		2		0-2			
	数学 B							2		0-2			
理科	総合理科								3	0-3			
	物理 I A					2		2		0-2			
	化学 I A			2				2		2			
	生物 I A	2								2			
保健体育	体育	2		2				3		7			
	保健	1		1						2			
芸術	音楽 I		2			2			2	0-2			
	音楽 II					2			2	0-2			
	美術 I		2			2			2	0-2			
	美術 II					2			2	0-2			
	書道 I		2			2			2	0-2			
外国語	英語 I	3								3			
	英語 II			3						3			
	オーストラリアンコミュニケーション A						2			2			
	オーストラリアンコミュニケーション B							2		0-2			
	ライティング				3				3	0-3			
家庭	生活一般			2				2		4			
	被服						2		3	0-3			
	食物						2		2	0-2			
総合	産業社会と人間	1		1			1			3			
普通科目合計		20			21-24			16-22			57-66		
教科	科目	1年		2年		3年		2年		3年		履修単位	
		必修	△選択	必修	☆選択	必修	☆選択	必修	☆選択	必修	☆選択		
商業	流通経済	2										2	
	簿記	3		3		☆3	□3	☆3	□3	☆3	□3	3-6	
	情報処理	3	☆3	□3	3			3		☆3	□3	3-6	
	計算事務	2	☆3	□3	☆3	□3	☆3	□3	☆3	□3	☆3	□3	2-5
	総課題研究			3		3		3		3		3	
	商			2		2		2		2		2	
	マーケティング			□3		□3		□3		□3		□3	0-3
	商業デザイン			□3		□3		□3		□3		□3	0-3
	商業経済			□3		□3		□3	3		□3	□3	0-3
	経営			□3		□3		□3		3		□3	0-3
	商業法規			□3		□3		□3		□3		□3	0-3
	英語実務	☆3	□3	☆3	□3	☆3	□3	☆3	□3	3		0-3	
	国際経済		□3		□3		□3		□3		3	0-3	
	工業簿記	3		☆3	□3	☆3	□3	☆3	□3	☆3	□3	0-3	
	社会			3		□3		□3		□3		□3	0-3
	税務会計			□3		□3		□3		□3		□3	0-3
	文書処理	☆3	□3	☆3	□3	3	3	☆3	□3	3		0-6	
プログラミング	☆3	□3	3		☆3	□3	☆3	□3	☆3	□3	0-3		
情報管理		□3		□3		□3		□3		□3	□3	0-3	
経営情報		□3		□3		□3		□3		□3	□3	0-3	
ビジネス基礎	☆3	□3	☆3	□3	☆3	□3	3		☆3	□3	0-3		
1D1-3													
コンピュータ			□3		3		3		□3		□3	0-3	
商業科目合計	10	6-9	8-14	6-9	8-14	6-9	8-14	6-9	8-14	6-9	8-14	24-33	
ホームルーム活動	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
クラブ活動	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
合計	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	96	

・選択方法

- 1年次：△…1つ選択
 - 2年次：◇…2つ選択 ☆…1つ選択 (普商選択)]…1つ選択
 - 3年次：○…2つ選択 □…2つ選択 (普商選択)]…1つ選択
- (2年次に履修した選択科目は、3年次では選択することができない)

IV 生徒の多様化に対応した教育課程（定時制課程）

1 定時制の現状

現在、定時制商業高校には、不本意で入学した者（定時制を第1志望としない者）、全日制からの転編入者が多く在籍しており、こうした生徒の中には意欲的に学校生活を取り組んでいる者もいる反面、日常の授業や学校行事に対して興味・関心がもてない者もいる。基礎学力面でも、文章理解力や計算力などの差が大きく、一斉授業の展開が困難な場合も多い。進路面では近年、大学・短大、専門学校への進学を希望する者も増える傾向にあり、定時制においても高学歴志向にある。こうした状況の中で、教科指導面ではチームティーチングや習熟度別学習による授業を多く取り入れ、生徒個々の興味・関心・意欲を高める授業の展開をはかる工夫を行っている。また進路指導面では、生徒の適性や進路希望に沿った進路指導の充実のために進路部をはじめ学年担任団による、きめ細かな指導を行っている。

今年度の教育研究員は、生徒の多様化に対応すべく商業高校の在り方を探るとともに、その活性化の一方策として「総合選択制」による教育課程を中心に研究を進めてきた。「総合選択制」による教育課程は、生徒個々の興味・関心・意欲を高める効果が期待できるばかりでなく従来の定時制教育の特色である生徒個々に対するきめ細かな指導と結びつけていくことにより専門的知識をもった職業人を育成をする上でも有効な方策と思われる。なお、教育課程の作成にあたっては、次の点に留意した。

- ① 1学年2学級をモデルとして考えた。
- ② 1・2学年において、将来の職業の選択決定に必要な能力・態度を育成する科目として「産業社会と人間」を設置した。
- ③ 1・2学年を基礎学習期間とし、3・4学年では生徒自らの適性・進路などにあわせて履修できるよう多くの自由選択科目を配置した。

2. これからの教育課程の一考察

(1) 「総合選択制」の教育課程の特色

この教育課程の特色の一つは、1・2年次において「産業社会と人間」を取り入れたことである。この科目は、自己の在り方生き方を探求するという観点から、自己啓発的な体験発表や討論などを通じて、生徒個々が自己の理解を深めていくとともに、自らの将来像を描いていく過程の中で職業の選択決定に必要な能力・態度を育成することを目標とする。この科目を踏まえて、3・4年次における自由選択科目の選択決定に際し、生徒自らが自主的・主体的に取り組めるよう指導していく。また、この科目は「その他の教科・総合」として位置づけ、すべての教員が担当することによりその効果を高めていくことも狙いとしている。

もう一つの特色は、3・4年次において普通科目・商業科目の中から複数の自由選択科目を設置し、生徒自らが自主的・主体的な学習活動に取り組めるよう工夫を凝らしたことである。これにより教科・科目の専門性の深化を図ることができるばかりでなく、生徒個々の進路に対

応した科目選択が可能となる。なお、自由選択科目の履修に際しては、ガイダンスや個別指導により、生徒の適性・進路などにあわせたモデルプランを作成させていくことが大切である。また「総合選択制」による教育課程に対して、保護者や地域社会との連携を図っていくことも重要である。具体的にコース別のモデルプランを示したのが(2)ア～ウである。

(2) 各コースの目的と特色

ア 商業基礎コース

このコースは、商業の基礎を固めたい者に適している。全商ワープロ検定3級・珠算検定3～6級・簿記検定3級などの資格取得を目安とする。ワープロ技能や商品販売に関する科目を選択し、流通業やサービス業の仕組みを学んだり、日常業務における処理能力を養うことができる。例えば、流通経済分野を学習したい生徒は次のようなプランが考えられる。

3年次：国語表現(2)・マーケティング(2)・文書処理(2) 4年次：数学A(2)・オラルコミュニケーションA(2)・商品(2)・文書処理(2)

イ 商業専門コース

このコースは、商業の専門性を深めたい者に適している。全商簿記検定2級以上・ワープロ検定3級以上・情報処理検定2級・コンピュータ利用技術検定2級以上を学習する。ワープロ技能や会計・プログラミングといった専門的知識・技術に関する科目を多く選択できる。また、専門学校への進学にも対応できる。例えば、会計分野を学習したい生徒は、次のようなプランが考えられる。

3年次：現代文(2)・会計(2)・文書処理(2) 4年次：オラルコミュニケーションB(2)・商品(2)・工業簿記(2)・文書処理(2)
--

ウ 進学コース(大学・短大進学)

このコースは、経営・商学・会計・情報などの大学・短大へ進学を希望する者を対象とする。全商簿記検定1級・情報処理検定1級・コンピュータ利用技術検定1級など上位の検定合格を目標とする。現代文や英語など普通科目に重点を置くこともできるし、会計または情報処理に対する高度な知識を習得できる科目選択も可能である。例えば、経営学部に進学を希望する生徒では、次のようなプランが考えられる。

3年次：現代文(2)・リテイング(2)・工業簿記(2)または会計(2) 4年次：現代文(2)・リテイング(2)・工業簿記(2)または会計(2)または英語Ⅱ(2)

3 まとめ

「総合選択制」による教育課程は、多様化する生徒の興味・関心・進路希望などに対応することができ、生徒個々の潜在的な能力・態度などの伸長をはかる上で有効なものと考えられる。今後、こうした教育内容・方法の改善を進めると同時に、社会人講師など地域社会の教育力を取り入れていくことにより、さらに充実した定時制商業高校にしていくことができると考える。

教育課程（定時制課程）

教科	科目	共通		商業基礎コース		商業専門コース		進学コース		履修単位
		1年	2年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	
国語	国語Ⅰ	2	2							4
	国語Ⅱ			2	2	2	2	2	2	4
	国語表現			☆2	□2					0-4
	現代文					☆2	□2	☆2	□2	0-4
地歴	世界史A		2							2
	日本史A				□2		□2		◎2	0-2
	地理A	2								2
公民	現代社会			2	2	2	2	2	2	4
数学	数学Ⅰ	2	2							4
	数学Ⅱ			☆2		☆2		☆2		0-2
	数学A				□2		□2		□2	0-2
理科	物理ⅠA				□2		□2		◎2	0-2
	化学ⅠA			2		2		2		2
	生物ⅠA		2							2
保健体育	体育	2	2	2	2	2	2	2	2	8
	保健	1	1							2
芸術	音楽Ⅰ	◇2								0-2
	美術Ⅰ	◇2								0-2
	書道Ⅰ	◇2								0-2
外国語	英語Ⅰ	2	2							4
	英語Ⅱ			○2	□2	○2	□2	○2	□2	0-4
	外国語ⅠA			2	◎2	2		○2		2-4
	外国語ⅠB						◎2		◎2	0-2
	リーディング*					○2	◎2	○2	◎2	0-4
家庭	家庭一般			2	2	2	2	2	2	4
総合	産業社会と人間	1	1							2
普通科目合計		14	14	14-16	10-12	14-16	10-14	12-16	10-16	52-60
商業	流通経済	2								2
	簿記	2	3	○2	◎2	○2		○2		5-9
	情報処理		3							3
	計算事務	2		○2	◎2	○2	◎2	○2	◎2	2-6
	総合実践				2		2		2	2
	課題研究				2		2		2	2
	商品				◎2		◎2			0-2
	マーケティング			○2	◎2	○2	◎2			0-4
	産業デザイン			○2	◎2	○2	◎2			0-4
	商業法規			2		2		2		2
	工業簿記				◎2	○2	◎2	2	◎2	0-4
	会計				◎2	○2	◎2	○2	◎2	0-4
	税務会計						◎2			0-2
	文書処理			○2	◎2	○2	◎2		◎2	0-4
	ブローキング*				◎2	○2	◎2	○2	◎2	0-4
	情報管理						◎2		◎2	0-2
経営情報						◎2		◎2	0-2	
ビジネス基礎						◎2		◎2	0-2	
イントルーサー					○2	◎2		◎2	0-4	
コンピュータ								◎2	0-4	
商業科目合計		6	6	4-6	8-10	4-6	6-10	4-8	4-10	20-28
ホームルーム活動		1	1	1	1	1	1	1	1	4
クラブ活動		1	1	1	1	1	1	1	1	4
合計		22	22	22	22	22	22	22	22	88

選択方法

*共通1・2年次：◇=それぞれ1科目ずつ選択する。

*コース別3・4年次

3年次：☆…1つ選択 ○…2つ選択

4年次：□…1つ選択 ◎…3つ選択

*商業専門コースにおいて、情報処理を専攻する場合は「ブローキング」と「イントルーサー」を3・4年次の選択必修とする。

V 年間指導計画案

1 年間指導計画案 (1)

(1) 科 目 産業社会と人間

(2) 対象学年等 1 学年 1 単位

(3) 指導目標

- ① 自己を見つめ自分の将来について考えることにより、自分の生き方を主体的に考える態度を育成する。
- ② 2年生からの科目選択が的確にできるようにする。
- ③ 望ましい職業観・勤労観を養う。
- ④ 地域社会と積極的にかかわることにより、商業高校に対する理解を深める。

(4) 実施上の留意点

科目の性格上、特定の教科が受けもつのではなく、すべての教科の教員が担当する。また、ホームルーム担任の協力が必要なため、全クラス同日の同時間に開講する。

(5) 年間指導計画案

学期	月	項 目	時数	学習の内容	留 意 点
1	4	・ 自己の適性と 自己理解	3	・ オリエンテーション (科目紹介、担当者紹介、入学動機調査) ・ 自己理解、自己分析 ・ 自分史の作成	・ 自己診断表を配布する。 ・ 自己診断表をもとに作成させる。
	5		4		
	6		4		
	7		1		
2	9	・ 進路とコース 選択	4	・ 科目選択ガイダンス ・ 科目選択予備調査 ・ 授業見学	・ 一斉に行い、モデルコースを提示する。 ・ 個別相談を実施し、保護者にも連絡をとる。 ・ 2年生の授業を中心に見学する

2	10	・望ましい職業 観勤労観を養 う	4	・社会人、専門学校講 話と感想文 ・OB、OG講話と感 想文	・進路部と協力し、一斉に行う。 ・進路部と協力し、一斉に行う。
	11		4	・科目選択決定→履修 計画表の作成 ・進路講話と感想文	・カウンセリングも行う。 ・一斉に行う。
	12		2	<生徒による中学校訪 問の実施>	
3	1	・まとめ	4	・ライフプラン表の作 成とクラス発表	・自己診断表などを参考に作成さ せる。
	2		4		
	3		1		

2 年間指導計画案(2)

(1) 科 目 ビジネス基礎

(2) 対象学年等 2学年選択、3学年選択 3単位

(3) 指導目標

会社組織とその仕組みについて理解させることにより、多面的な角度から会社を考察し、評価する能力を育成する。また、ビジネスマナーや文書及びプレゼンテーション技術などを習得させることにより職業人としての基本的な能力を育成する。

(4) 指導上の留意点

- ① ビジネスマナーについては知識の習得だけでなく、実習を通してより効果的な指導を行う。
- ② 労働者の保護に関する法律については、条文についてだけでなく、実例などを多く取り入れ、より具体的な内容に基づき指導を行う。
- ③ プレゼンテーションについては、会社に関する調査などを行い、その結果をOA機器などを利用して発表させ、それについて相互に評価を行わせる。これによりプレゼンテーション能力の向上を図る。

(5) 年間指導計画案

学期	月	項 目	時数	学習の内容	留 意 点
1	4	・オリエンテー ション ・会社の概要	5	・1年間の学習予定 ・会社について ・会社の役割 ・会社の種類とその違 い	・会社のもつ意味とその役割につ いて理解させる。

1	4	・給与のしくみ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・賃金について (決定方法、給与明細の見方、定期昇給とベースアップ) ・新しい賃金システム (能力給と年俸制) ・人事考課 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用契約などと賃金との関連について理解させる。
	5	・望まれる人物像	4	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の望む人物像について 	<ul style="list-style-type: none"> ・会社が望む人物を明確にし、各自対比し考えさせる中で今後の課題を明確にさせる。
		・会社の数字の読み方	4	<ul style="list-style-type: none"> ・資金管理の方法と資金計画の立て方 ・資金調達の方法 ・資金運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・資金調達、運用を円滑に行うために重要な資金の管理、計画について理解させる。
	5	・会社の業績の読み方	4	<ul style="list-style-type: none"> ・貸借対照表の読み方 ・損益計算書の読み方 ・利益分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・他人資本と自己資本の意味について理解させるとともに両者の比較により経営の安定性などについても理解させる。 ・財務諸表の分析による評価方法について理解させる。
	6	・ビジネスマナーの基礎	12	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィス内でのマナー ・ビジネスマナーの基本 ・仕事を進めるうえでのマナー ・電話対応のマナー ・社外のビジネスマナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナーの重要性を理解させながら、ビデオや実習を踏まえて色々な場面におけるマナーを学習する。
	7		3	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス用語 (社内用語、経営用語 販売・流通の常識、 経理、財務、税金、 株式、経済・金融、 科学・技術) 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要と思われる用語を中心に学習する。
2	9	・OA機器の活用	12	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフト、ワープロソフト及びその他アプリケーションソフトの活用法 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使い、各種アプリケーションソフトにおけるデータの活用法について学習する。
			5	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフト、ワープロソフト及びその他アプリケーションソフトの活用法 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書の種類と各種文書の作成上のルール 	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書の種類と各種文書の効果的・効率的な作成方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書の重要性とビジネス文書作成上のルールを理解させると同時に、グラフなどを利用し、より効果的・効率的な作成方法を学習する。
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・労働者の保護に関する法律 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・労働保護法について（労働者の均等待遇、労働契約、女子および年少者の保護、労働条件賃金の支払に関する保護、有給休暇制度、災害補償制度など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働保護法について条文だけでなく、具体例をあげ、できるだけ分かりやすく指導する。
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの基本的な手法 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション能力の重要性について理解させるとともに、プレゼンテーションに必要な基本的手法を学習する。
3	1		12	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーション方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・A V、O A 機器を用いた、より効果的な方法について、パソコン等の機器を利用し、実践的に学習する。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・課題学習 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定、調査研究発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション技法を生かし、さらに工夫をさせながら発表させる。
	3		3		<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容及びプレゼンテーションの方法について相互に評価をさせながら、プレゼンテーション能力の向上を図る。

3 年間指導計画案(3)

(1) 科目 エンドユーザコンピューティング

(2) 対象学年等 2 学年選択必修、3 学年選択 3 単位（定時制 3 学年、4 学年選択 2 単位）

(3) 指導目標 企業経営における組織の仕組みや情報の流れ、これらを支援する情報システムの役割や機能を理解し、ユーザ部門の一員として作業に従事するかたわら、部門内またはグループの情報化を利用者の立場から推進し、実施する能力と態度を育成する。

(4) 指導内容 エンドユーザコンピューティングの流れに基づいた情報化推進の方法

(5) 指導上の留意点

1 学年で学習した「情報処理」の内容を受け、エンドユーザにおける情報化の推進への内容にしぼって、学習内容を深化・発展させ、通産省情報処理技術者試験（初級システムアドミニストレータ）、全商コンピュータ利用技術検定試験1級の合格を目指す。

(6) 年間指導計画案

学期	月	項目	時数	学習の内容	留意点	
1	4	仕事とコンピュータ				
		・仕事の進め方	4	・仕事の進め方の把握と改善	・業種ごとの業務活動と組織の役割について理解させる。	
			・考えを整理するための方法や知識	4	・データの分析、処理、整理の技法	・問題の発見方法や原因分析、問題解決への技法について理解させる。
			基幹システムの開発と運用			
	5	・ヒューマンインターフェースの設計	5	・入出力設計 (入出力原票、画面のレイアウト設計など)	・自部門の要求が正しく反映されているかを念頭におき、操作性配慮方法やテストの参加方法について理解させる。	
		・テスト及び検収	6	・テストの目的と手順、結果の検収		
	6	・システム運用	5	・システムの円滑な運用と更新、管理方法	・マニュアルの役割と更新についてもふれる。	
		エンドユーザコンピューティング				
		・エンドユーザコンピューティングの概要	7	・EUCの変遷とさまざまなEUC ・EUCとEUD ・EUCと標準化	・コンピュータの進化と利用方法の変遷について理解させる。 ・基幹システムとエンドユーザシステムの違いを理解させる。 ・入出力設計との関連づけをさせながら理解させる。	
	7	・ハードウェアコンピュータ	7	・ハードウェアの種類と分類 ・ソフトウェアの種類と分類	・動作の仕組みを理解させ、装置は実物をみせる。 ・OSの役割を中心に理解させる。	
2	9	・表計算とデータベース	9	・表計算ソフトの特徴と機能	・演習問題を行う。 (実習は「情報処理」で実施)	

2	10		5	・データベースの種類と基本構造	・実習は「情報処理」で実施。
			10	・関係データベースとSQL ・正規化 ・集合、関係演算（選択、射影、結合） ・データベース操作言語（検索、変更、削除）	・正規化の必要性を理解させる。 ・演習問題を行う。
	11	・パーソナルコンピュータとネットワーク	7	・ネットワークの概要と役割 ・サーバの種類と役割 ・パソコンLAN ・クライアントサーバシステム	・LANとWANについて理解させる。 ・LANの通信制御について理解させる。 ・ネットワークとの違いを明確にさせる。
	12	・パーソナルコンピュータのさまざまな使い方 ・オフィス環境	7 4	・マルチメディア ・グループウェア ・パソコン通信 ・インターネット ・商用データベース ・オフィス環境整備	・概要と種類、利用分野及びサービス、ハードウェアとソフトウェアの効果的な利用方法を理解させる。 ・レイアウト、電源や配線、周辺機器の環境整備について理解させる。
3	1	システム環境整備と運用管理			
		・システム環境整備	5	・ハードウェアの選定 ・システムセットアップ ・パソコンLANの導入と環境整備と運用	・パソコンの導入時やネットワーク導入時における注意点を理解させる。
	・システム運用管理	5	・構成管理、ファイル管理 性能・障害管理、セキュリティ管理 ・権利の保護と管理	・管理の必要性を理解し、その対処方法について理解させる。 ・著作権、使用許諾契約について理解させる。	
	2	表現能力 ・EUC推進への話し方の技術	5	・話し方の重要性 ・準備のポイント ・効果的な話し方、やりとりの技法 ・ポインティング ・OHPの利用	・基本的、かつ効果的な話し方や発問・応答の種類と使い分けができるようにさせる。 ・OHPの作成上、使用上の留意点

		・ EUC推進への 文章の書き方	5	・ 分かりやすい文章と そのための工夫 ・ 文章を書く前の準備 や手順	を理解させる。 ・ 要点の明確さや相互関係、全体 の中での位置づけにおける流れ や変化を理解させる。 ・ 主題決定から文章化までの手順 を理解させる。
3	3	・ EUC推進への ビジュアル表現	5	・ ビジュアル表現の種類 とその用途、効用	・ 用途に応じたグラフや図解の種類 を理解させる。

VI おわりに

「生徒の多様化に対応した商業高校の在り方」をテーマに、研究、討議を重ねてきた。

今日の社会は、国際化、情報化、経済のサービス化など多様な状況を呈している。こうした社会状況の中で、これからの商業教育においては、生徒一人一人が多様な社会に適応していくために、各自の個性を磨き、特技を伸ばすとともに、自己を主張し、他人の意見を尊重するといった学習を経験させることが大切になってくる。そのための教育課程の多様化も図らなければならない。この観点から、商業高校での教育課程の一つのモデルを提示した。これまでの商業高校においては、類型制、小学科制が取り入れられ、それぞれ実績をあげてきたが、社会の変化と生徒の多様化に対応できない状況から、職業教育ということにこだわらないこと、講義法のみを終始しないことなど弾力的な教育課程の編成・実施と指導・評価が必要である。

商業教育が各面にわたって多様性が拡大すると、各学校で行われる商業教育は種々の点で異なり、個性化特色化が進んでいくことになる。中学校側の商業高校へのイメージは不明瞭であるのが現状であることから、今まで以上に中学校の生徒、教員、保護者に対して正しい認識を得るよう働きかけることが大切であると感じる。この一年間の研究を通じて得た蓄積をもとにこれからも多様化するであろう時代の中で、生徒及び社会が要請する学校づくりに少しでも貢献できるよう努めていきたい。